

知る、伝える、つながる

一般社団法人いいたてネットワーク 横山 秀人さん

飯舘村の未来のために

■現在の活動

いいたてネットワークでは、村の状況や村民の声を配信する地域シンクタンク事業を行っています。「飯舘村の未来を考えるためのデータブック」や「いいたてフォトマップ」などの、見てすぐイメージできるものの作成・配信が中心です。村内に居住していない人も交流ができる、「生活に彩りと癒しプロジェクト」も行っています。

■活動を通じての思い

現在（2018年1月）の帰村村民は約1割です。村に戻らない・戻れない皆さんからも飯舘村とつながってほしいと聞きます。そこで気軽につながれる、できれば将来を一緒に考えられる機会を作ろうと、2017年12月ネットワークとは別に「いいたて未来会議」（飯舘村自治組織）を立ち上げました。

いいたてネットワークでは、一緒に働く村民が「やってみたい」という事業を行う方針にしています。補助を受けるために事業計画が先行すると負担も大きくなるので、隙間時間に在宅でもできるように仕事を工夫し事業を行っています。この形で関わっていただける村民を増やしていきたいです。



お話いただいた横山さん



飯舘村の未来を考えるためのデータブック

第1版
2016.12.0

（上）データブック。空間線量や将来人口の推計等、一冊で様々な側面から村の状況がわかる。

（左）いいたてフォトマップ。避難前と現在の比較写真 8月の「田んぼへの木橋」 避難前後の様子が比較できる。



避難前
H16.8.7



避難から2年5か月後
H25.8.15



避難から4年5か月後
H27.8.13



避難から5年5か月後
H28.8.12



避難指示解除後
H29.8.17

前に進む議論をするため

■これまでの経緯

震災時は飯舘村の役場職員として、避難先を探す担当をしていました。震災から一週間後、三世代で暮らしていた我が家も離れ離れに避難することになり、複雑な思いになりました。さまざまな現実に触れ、役場職員ではできない形で村に貢献しようと思い、退職し活動を始めました。

まず、飯舘村について村民の方々と話してもその場限りとなってしまうため、村民の声を飯舘村役場に届ける「届け！避難者の声プロジェクト」を実施しました。また、学校再開の際は転校が悩みになるので、先に転校した保護者の声を「飯舘村転校経験談紹介プロジェクト」でまとめ、役場や教育委員会へ届けることをしました。

いろんな場で人が集まると、議論が感情的、抽象的になる様子を見て、何とかしたいと思いました。客観的なデータがあれば将来の飯舘村について考えられるのではと思い、「飯舘村の未来を考えるためのデータブック」を支援を受けて作成しました。そこから、現在の団体の形になりました。



データブックの一例。帰還意向 (小学校学区別)

小学校学区別に種系すると、福島第一原子力発電所に近い小学校区の方が「戻らない」と決めた家庭が多いことがわかります。詳細は以下。
<http://iitate.machidata.com/2016/12/28/data-book/>

次の世代へ受け継ぐ

■今後の活動

村外で住宅再建をした人も含めて、村民の交流・議論する場をもっと増やしたいと思っています。いいたて未来会議や交流事業の回数も増やしたいですね。

飯舘村議会の若い議員さんもSNSなどで情報発信をしてくださっています。いいたて未来会議でも、行政・民間を問わず、飯舘村に関する情報をお伝えして行こうと思っています。

現在は私たちの上の世代の方が一生懸命、飯舘村の村づくりを行っています。飯舘村の歴史を見ても、村づくりの精神は次の世代、またその次の世代へと受け継がれてきました。私たち40代・50代の世代が中心的な役割を担う時が必ずくると思います。その時すぐに動くことができるように、村民同士のネットワークを作りながら、飯舘村の将来について今から考え、動いていきたいと思っています。



村外に住む住民も参加した交流事業。ハーバリウムを一緒に作りました。